# メンテナンス・レジリエンスTOKYO2017「見てある記②」

7月19―21日の3日間、東京・江東区の東京ビッグサイトで開催された「メンテナンス・レジリエンスTOKYO2017」。「非破壊評価総合展」（主催＝日本非破壊検査工業会〈JANDT〉、特別協賛＝日本非破壊検査協会〈JSNDI〉）を含む9展示会で構成する同イベントでは、実演や体験型の展示など、趣向を凝らしたピーアールも多く行われた。また、検査とメンテナンスの情報交流プラザ＝写真＝には、JANDTとJSNDIが出展。航空産業と非破壊検査コーナーでは、ジェット機のコックピット模型などを展示した。主要出展企業の見どころを、見てある記で紹介する（最終回）

◆ウィズソル

ウィズソルは、検査の高精度化・効率化を実現する自社開発の技術・装置を幅広く出展。超音波を用いた配管連続板厚測定装置「UDP-8」などをピーアールしたほか、新開発の「マルチチャンネル式水浸UT」を初出展した。

同装置は、ボイラチューブ全面を高速スクリーニングし、厚さなどを測定するもの。複数のプローブを備えたことで、従来よりも測定速度を向上させた。また、先端部構造がシンプルなため「これまではまっすぐな配管の検査がメーンだったが、曲管部も通過しやすくなり、複雑な形状にも適用可能になった」と担当者は語る。

ウィズソル